# メッセージ

高校 19 期 （1967 年卒） 川上　貴司

皆さんより少しだけ長くハンドボールに携わってきた事でお許しを頂き、私のハンドボール歴を披露させて頂こうと思います。

私は幼少時代を市内港区で過ごしました。当時は今と違って空き地も多く遊ぶ場所には事欠きませんでした。野球が盛んで、たまたま近所に元南海ﾎｰｸｽから読売ジャイアンツでサードを守っていた富田勝さん（興国高～法政大）や野球好きの少年達が大勢いた事もあり、本当によく野球をしました。「将来はジャイアンツの長嶋選手のようになりたい」と真剣に思っていたのですが、親の意向で 6 年生から 1 時間以上かけ天王寺区の小学校、中学校に通学する事になり（越境入学）、残念ながらその夢は遠ざかってしまいました。根っから運動好きだった私は高校では小柄な体をあまり気にしないで済む柔道をと思っていたのですが、入学後まもなく部室前で久岡さん（18 期）に呼び止められ、放課後の練習見学を勧められました。初めて見たハンドボールはスピード感があり、走・投・跳がミックスされたなかなか面白そうなスポーツで、未経験でしたがすぐ入部する事にしました。以後約半世紀のお付き合いになります。

当時の練習方法は 11 人制から 7 人制に移行してまだ日も浅かったせいか、11 人制の練習方法が色濃かったように思います。林さん（13 期）には競技が過渡期であったにも拘わらず基本をしっかり指導頂きました。同期は経験者で強肩の森田、テクニシャンの玉井、そして私の 3 人だけでしたが、林さんの熱心で丁寧な指導のお陰もあり、素人の私でも短期間で 2 人に近づけたように思います。何事も貪欲に吸収できる時期に、林さんのような基本を大事にする指導者に巡り会えた事は本当に幸せだったと思います。上級生では南原さんのパワフルなステップシュートや佐藤（健二）さんの右足ジャンプシュート、東中さんの個性的なプレーなどが印象に残っています。

1 年生の夏の合宿では先輩方が大勢グランドに来られ指導を受けました。一週間炎天下での猛練習でした。早朝・午前・午後の 3 部練習で全員ほぼ体力の限界だったと思います。練習中の水分補給は制限され、そのためどうしても練習後一気に水分を摂る事になり、私は悪循環の結果食欲が減りスイカなどの果物以外食事は少量しか喉を通らなくなっていました。当然体力も低下し少し風邪気味で微熱があったにも関わらずそれを言い出せずにそのまま練習を続けていた所、合宿最後の練習中意識が朦朧となってグランドに倒れ込んでしまいました。手足がしびれ感覚がマヒしていましたので今で言う「熱中症」だったかも知れません。私はすぐ学校の保健室に運びこまれ、先輩方の迅速で適切な処置で事なきを得たのです。顧問の今中先生、山岡先生（故人）はさぞ肝を冷やされたに違いありません。チームメイトや関係者の皆さんには随分心配やご迷惑をかけましたが、合宿を終え疲れた体で私を自宅まで送って頂いた先輩の安堵の表情が今も忘れられません。両親は突

然の事で驚いたと思いますが、父親は息子の不始末のお詫びとお世話になったお礼こそ言え、関係者に苦言や苦情を一切言いませんでした。今ならきっと大騒ぎになっていたかも知れません。そんな事もありましたが私のハンドボールへの思いは逆にますます強くなり、両親の心配をよそに休養後しばらくしてチームに復帰しました。

現役時代ハンドボールへのモチベーションを高めるきっかけになった出来事が二つありました。一つは1964年に開催された東京オリンピックです。テレビの画面で見る世界のトップアスリートが躍動する姿や日本選手の活躍を毎日食入るように見ていました。ハンドボールが初めて1972年のドイツ、ミュンヘン大会で正式種目になる可能性がありましたので、8年後に私も彼等と同じ世界の舞台に立ってみたいと思ったのです。もう一つは浅野さん（12期）［＊京大OB、1963年スウェーデンでの第1回世界学生選手権大会（ユニバーシアード）全日本学生代表選手、監督渡辺一巳（関学）コーチ勝繁夫（立教）優勝スウェーデン、日本7ヶ国中7位］との出会いです。浅野さんが社会人となってまだ間もない頃でしょうか、当時関西学生リーグで各大学のトッププレーヤーだったＯＢを集めてクラブチーム「関西球友会」を作られた事があり、私達と一緒に練習する機会が何度かありました。当時大阪のクラブチームでは日体大ＯＢ選手を集めた大阪イーグルスが飛びぬけて強かったため、浅野さんの性格から「打倒イーグルス」の思いで力を入れられたのだろうと思います。当時のトッププレーヤーの方々と一緒に練習した経験は私にとって強烈なインパクトで、その時以来私の憧れ(目標)の選手になりました。

## 世界学生選手権 ～男子のみ～

### ◆第1回

（1963年(昭38)1月1日～6日・スウェーデン，参加7ヶ国）

▽予選リーグA組

スウェーデン 26 (13－3 / 13－12) 15 日本
デンマーク 24－17 スペイン
スウェーデン 22－12 スペイン
デンマーク 34 (13－6 / 21－5) 11 日本
スウェーデン 17－11 デンマーク
スペイン 31 (14－3 / 17－6) 9 日本

▽同B組

西ドイツ 14－13 ノルウェー
ルーマニア 22－11 ノルウェー
西ドイツ 16－15 ルーマニア

(注)B組に参加予定のブルガリアは棄権。このため，7・8位決定戦は行なわれず，A組4位の日本が自動的に7位。

▽5・6位決定戦

ノルウェー 22 ( － / － ) 18 スペイン

▽3・4位決定戦

ルーマニア 27 ( － / － ) 18 デンマーク

▽決勝戦

スウェーデン 14 ( － / － ) 11 西ドイツ

〔優勝メンバー・スウェーデン〕
監督／マットソン　GK／サルーナス，ソールバーグ　FP／ヨハンソン，リンドブラド，アテリング，スコグルンド，P・オルソン，バアルド，リマン，リッカードソン，L・オルソン。

〔日本代表〕団長／柵橋義輝（関東学連会長）　監督／渡辺一己（関学OB）　コーチ／勝繁夫（立教OB）　GK／谷義信（芝浦工大）奥本義昭（同志社）　FP／安達精太，与縄義昭，中根敏男（以上立教），諏訪紀一（慶応），坂井弘元（中央），藤原伸（日体），田口敬蔵（法政），森末和裕，村田陽光（以上関学），大高慎貴（甲南），荘林康次（神戸大），浅野和郎（京大），市原則之（広島商科大）。

# 男女とも東軍が連勝

## 全日本学生東西対抗

第21回（女子第3回）全日本学生選抜東西対抗は9月18日午後2時5分から名古屋の愛知県体育館で行われ、男女とも攻撃力に優る東軍（東北北海道、北信越、関東）が昨年につづき快勝した。通算成績は男子・東軍13勝8敗、女子・東軍2勝1敗（観衆三千）

### 西軍の反撃遅し

▽男子

東　軍 18（9－3 / 9－9）12 西　軍

☆……両チームともにコンビネーションがもう一つ整わず、特に西軍の立ちあがりは凡ミスが目立ちそのスキを松、佐藤要らの個人技でつかれた。

前半12分3－0のあと西軍は夏目が初ゴールをあげたが、東軍も16分、17分松の連続得点で主導権をはなさなかった。

後半も東軍のペース、5分には12－4と差がついた。東軍が要所は日体大5名を繰り出して相手の動きを封じこめたのに対し、西軍はひんぱんに選手を交代させ最後までコンビがとれずに終った。オールスターゲームの難しいところであろう。

［西軍は後半6分から川上、中村らの個人技でポイント、21分には9－15まで盛り返したものの大勢をくつがえすにはほど遠かった。］

### 東軍、前半で勝負決める

▽女子

東　軍 11（9－1 / 2－3）4 西　軍

★……東軍が巧いスタートを切った。1分30秒木村、2分10秒韮沢で先行、9分にも福田がゴールを決めた。ペースにのるとかなり思い切ったプレーを見せるのが最近の女子の傾向、この日の東軍がまさにそれでのびのびとした攻撃を展開、一方的に得点を重ねた。

西軍は16分安井がジャンプシュートを決めただけで勝負はあっけなく前半でついてしまった。

後半になって西軍もスムースな動きを示し、相手を上廻る場面もあったが11分4－10としたのが精いっぱい。

東軍の攻撃はパス、ランニングコースとも鋭さがあり、つねにシュートへの意欲がみうけられ、速攻にも迫力があった。西軍はチームとしてのプレーがまとまらず特に立ちあがり、あっさり得点を与えたのが最後までひびいた。

**全日本学生組合せ速報**　▽男子組合せ1回戦、①福岡大×関学、②愛知教大×国士館、③富山大×大阪体大、④東北学院×立教、⑤山口大×京都産大、⑥法政×岐阜大、⑦大阪経大×早稲田、⑧芝浦工大×京大、⑨金沢工大×東京教大、⑩九州産大×甲南、⑪中京×日大、⑫中央×松山商大、⑬東北大×関西大、⑭名城×東京学芸大、⑮西南学院×同志社

◇同2回戦　日体×①の勝者、②×③……⑭×⑮

▽女子組合せ1回戦　①福岡教大×中京女大、②日女体大×甲子園学院

▽同2回戦（準々決勝）日体×①の勝者、東京教大×大阪体大、東京学芸大×中京、東女体大×②の勝者

○……男　　子……○

| 得 | 【東　軍】 | | | 【西　軍】 | 得 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 高橋誠（日　体） | GK | | 森　友（大阪経大） | 0 |
| 0 | 馬　淵（立　教） | GK | | 逢　坂（大阪体大） | 0 |
| 3 | 松　原（日　体） | FP | | 川　上（関　学） | 5 |
| 0 | 佐藤雄（日　体） | FP | | 松　井（同　志　社） | 1 |
| 5 | 佐藤要（中　央） | FP | | 川　口（名　城） | 0 |
| 1 | 佐々木（中　央） | FP | | 飼　沼（名　城） | 1 |
| 0 | 荒　井（法　政） | FP | | 夏　目（中　京） | 1 |
| 1 | 明　石（芝浦工大） | FP | | 木　原（松山商大） | 0 |
| 3 | 松　尾（日　大） | FP | | 藤　井（大阪体大） | 0 |
| 1 | 酒　尾（金沢工大） | FP | | 橋本広（大阪経大） | 1 |
| 0 | 佐藤富（日　体） | FP | | 中　村（大阪体大） | 3 |
| 0 | 松　岡（日　体） | FP | | 大　山（松山商大） | 0 |
| 4 | 高橋精（日　体） | FP | | 磯　道（広　島　大） | 0 |
| 0 | 山　本（仙　台） | FP | | 岩　原（西南学院） | 0 |
| | | | | 牧（西南学院） | 0 |
| 18 | （0） | 7MT | | （1） | 12 |

▽審判＝鈴木四，奥村

○……女　　子……○

| 得 | 【東　軍】 | | | 【西　軍】 | 得 |
|---|---|---|---|---|---|
| 0 | 大工原（日　体） | GK | | 柿　田（甲子園） | 0 |
| 0 | 松　井（東京教大） | GK | | 戸　谷（大阪体大） | 0 |
| 0 | 永　田（日　体） | FP | | 辻（甲子園） | 0 |
| 1 | 嶋　田（日　体） | FP | | 和　歌（甲子園） | 0 |
| 3 | 木　村（日　体） | FP | | 乗正房（甲子園） | 0 |
| 1 | 福　田（日　体） | FP | | 継　田（甲子園） | 0 |
| 4 | 韮　沢（東京教大） | FP | | 玉　岡（大阪体大） | 1 |
| 1 | 堀　江（東女体大） | FP | | 岡（大阪体大） | 0 |
| 0 | 小　貫（日　体） | FP | | 宮田紀（中　京） | 1 |
| 0 | 渡　辺（東京教大） | FP | | 白　井（甲子園） | 0 |
| 0 | 岩　本（日　体） | FP | | 大　崎（中　京） | 0 |
| 0 | 継（東京教大） | FP | | 田　島（中　京） | 0 |
| 1 | 川　井（東女体大） | FP | | 安　井（中　京女） | 1 |
| 0 | 赤　塚（日　体） | FP | | 佐　竹（中　京） | 1 |
| 0 | 高　橋（東女体大） | FP | | 宮田麗（甲子園） | 0 |
| 11 | （0） | 7MT | | （0） | 4 |

▽審判＝浅野，赤松

浅野さんとのエピソードを少し紹介したいと思います。当時朝日新聞社の後援で全日本学生選抜ハンドボール東西対抗戦（第1回大会1948年西宮）が毎年開催されていました。私は第20回（1970年）、第21回（1971年）と続けて出場しましたが、4年生の時（1971年愛知県体育館）学生の身で名古屋への遠征費用も大変だろうと言う事で、当時浅野さんの勤務先であった東銀名古屋支店の空き社宅を急遽遠征宿泊先に提供して頂きました。まだ新婚間もないお二人でしたが歓待して頂き、たいへん嬉しか

った事を思い出します。後日談もあるのですが、それは別の機会にとっておきたいと思います。浅野さんは東銀～東京三菱の役員を経てイオンクレジットサービスの会長になられ、年齢的にもまだまだご活躍をされるものと思っておりましたが若くして急逝されました。ＯＢ・ＯＧ会を指導頂き、今回の部誌にも寄稿して頂きたかったのですが本当に残念です。

高校時代に話を戻しますが、2 年生になってからは林さんに代わって佐藤さん（17 期）によく指導して頂きました。佐藤さんは当時関西学生 2 部リーグ（阪大）で活躍されておられましたので、練習は 7 人制の新しい技術や合理的な練習方法を中心にしたもので、中身はたいへん厳しいものでした。同期は勿論ですが、下級生の井崎、稲葉、大地、高津、早島は元々運動能力の優れた選手でしたがよく練習について来てくれ、夏合宿を経て秋を迎える頃には 1 年生ながら基本のしっかり出来た選手に成長していました。これは自慢話ですが、当時体育の授業でスポーツテスト（50m 走､懸垂、走り幅跳び、ハンドボール投げ、1500m 持久走の 5 種目、各 20 点で 100 点満点）がありました。ハンドボール部はＡクラス（80 点以上）をとる部員が多く、他のクラブをリードする存在でした。私自身も満点に近い成績だったと記憶しています。又、体育祭最後を飾るクラブ対抗リレーでは陸上競技部を負かす程でした。実際ハンドボールの実力でも、当時大学 2 部チームとの練習試合を経験させてもらいましたが、キーパー早島と稲葉、井崎両サイドによる速攻、高津のサウスポーからのミドルシュート、森田、大地のディフェンスなどがうまくかみ合い、ほぼ互角に戦えるまでになっていました。短期間でこれだけまとまったチームに成長できたのは部員の努力もありますが、佐藤さんの厳しい中にも情熱溢れる指導に依るところが大きかったと思います。佐藤さんは今もシニアリーグで生涯スポーツとしてハンドボールを続けておられます。私も大いに刺激を受け、体が動ける間はぜひご一緒したいと思っています。

私達の学年は残念ながら近畿大会出場を果たせませんでしたが、忘れられない試合として 2 年生の大阪府新人大会があります。前評判では優勝候補筆頭に佐野工業高校、次に豊中高校の名前が挙がっていました。高津は全くノーマークだったのですが、私達は勝ち進み両校を負かして準決勝まで駒を進めました。相手は都島工業高校でしたが、試合前北岡先生（都島工業顧問）が近づいて来られ、敵である私に勝利のエールを贈られました。今から思えばこれは先生の作戦だったのですが、未熟な私は全くそれとは気付かず、無欲で戦ってきた私達はすっかり油断をしてしまったのです。試合が始まると私はマンツーマンで執拗にマークされ続け、結局僅差で負けてしまいました。キャプテンとしての不甲斐なさを味わいましたし、戦いはコートの上だけではない事も思い知らされました。チームメイトには勿論、優勝を信じてわざわざ会場まで応援に駆けつけてくれた校友にも申し訳なく、本当に悔しい思いをした試合でした。

ハンドボール部の先輩の中には尊敬する先輩がたくさんおられます。その中でも榎本さん津田さん（7 期）には本当に永い間お世話になりました。お二人は高校と大学（関学）共ハンドボール部の先輩ですが、

大学時代に日本一（11人制）を経験されました。（当時関学は関西で常勝の強豪チームで7度日本一になっています）お二人の話によりますと、現役時代大学の練習を高校に持ち込まれ相当厳しく後輩達を指導されたようです。練習内容は今でも語り草になっていますが、それが高津ハンドボール部の第1期黄金時代に繋がって行ったのだろうと思います。卒業後榎本さんは丸善石油～コスモ石油の専務になられ、退職後は関学ハンドボール部ＯＢ会会長も務められました。コスモ石油時代のご経歴から財界との人脈も幅広くお持ちで、現在も多方面で活躍されておられます。津田さんは大学卒業後ドイツの会社に就職、地元のクラブチームでドイツ人と一緒にハンドボールをされました。当時のハンドボール界では本当に珍しい事だったと思います。国際感覚を身につけられた後、大阪ミナミでアパレル関係の会社を経営され成功を収められました。お二人には今も公私にわたりご指導頂いています。

## 出場選手（関西学生選抜チーム）

| | | | | |
|---|---|---|---|---|
| 監督 | 中江 義雄 | Y. Nakae | 同志社ＯＢ | 同志社大学ハンドボール部監督 |
| コーチ | 飯端 寿昭 | T. Iibata | 関学ＯＢ | 三国丘クラブ主将 |
| 〃 | 山崎 武 | T. Yamasaki | 日体大ＯＢ | 大阪体育大学ハンドボール部監督 |
| 主務 | 伊谷 勝幸 | M. Itani | 追手門学院 | 関西学生ハンドボール連盟企画部長 |

| 姓 | 名 | | 名所属チーム | 出身高校 | 身長 | 体重 | 背番号 |
|---|---|---|---|---|---|---|---|
| 入江 | 修一 | S. Irie | 関西大学4年 | 桜塚高校 | 174 | 64 | 1 (G.K) |
| 土田 | 英夫 | H. Tuchida | 桃山学院4年 | 乙訓高校 | 173 | 64 | 2 |
| 脇田 | 俊幸 | T. Wakita | 大阪経済4年 | 県和歌山商 | 178 | 59 | 3 |
| 清水 | 正広 | M. Simizu | 大阪経済4年 | 乙訓高校 | 173 | 62 | 4 |
| 小林 | 士郎 | S. Kobayasi | 大阪外国語4年 | 天王寺高校 | 178 | 68 | 5 |
| 中野 | 孝志 | T. Nakno | 同志社4年 | 枚方高校 | 176 | 62 | 6 |
| 中井 | 武三 | T. Nakai | 同志社4年 | 伏見工業高 | 180 | 74 | 7（主将） |
| 松井 | 昭二 | S. Matui | 同志社3年 | 桜台高校 | 174 | 64 | 8 |
| 宮松 | 久大 | H. Miyamato | 関西大学3年 | 桜台高校 | 174 | 63 | 9 |
| 川上 | 貴司 | T. Kawkami | 関西学院3年 | 高津高校 | 166 | 68 | 10 |
| 藤井 | 勉 | T. Fuzii | 大阪体育3年 | 淀商業高校 | 173 | 63 | 11 |
| 岩田 | 豊秋 | T. Iwata | 同志社3年 | 枚方高校 | 176 | 67 | 12(G.K) |

レフリー　東　嘉伸　　光島磯雄

後列 1.・ 2.光島磯雄 (日体大)･レフェリー　3.飯端寿昭 (関学)･コーチ　4. 東　嘉伸 (日体大)･レフェリー ・・・・村田　弘 (右から６番目) ・ (三国丘～日体大)
元 高津高校ハンドボール部 顧問

前列　中江義雄(左端)･監督・・・・・・・・・・・・・・・・川上貴司(右から６番目)・・・・

## 第４回日韓学生国際親善ハンドボール大会
## 1970.7.5　大阪中央体育館
### 関西学生選抜　１８－１９　成均館大学

中江義雄さん（10 期）にもたいへんお世話になりました。朝日新聞社に勤務の傍ら同志社大学の監督もされておられましたので、ライバル校として関学との対戦も数多くありましたが、3 年の時、第 4 回日韓学生国際親善ハンドボール大会が大阪市中央体育館であり、監督中江さん、コーチ飯端寿昭さん（関学）で必勝を期し試合に臨んだ事があります。観客もたくさん詰めかけ、会場は 1 点を争う好ゲームに大いに盛上りました。結果はエース中井選手(同志社～大同製鋼)の欠場が響き 19-18 で負け、残念ながら監督・コーチに勝利をプレゼントできませんでした。しかし、私にとっては高校・大学の先輩と一緒に戦えた事、又、私の初めての国際試合出場と言う事で両親を招待し、ハンドボールを知らなかった 2 人に初めて観戦をしてもらった事、そしてアクシデント（後述）以来競技を続ける事に反対していた両親が、私が 5 点ゲットしてチームに貢献する姿を間近に見て安心したのかたいへん喜んでくれた事などが幸いし、私の心のわだかまりもすっかり消えてプレーに自信がつくと共に、成長への転機となった特別な試合になっています。中江さんはハンドボールに対して人一倍熱い情熱を持

っておられ、今も関西学生ハンドボール連盟の会長に就かれ斯界の為に貢献されておられます。高校・大学・社会人、そして現在に至るまで一貫してハンドボールに取組まれておられる姿勢には本当に頭が下がる思いです。

額田晃作さん（5 期）は現役の歯科医として診療の傍ら、芸術家としても年齢を感じさせない旺盛な創作活動を続けておられます。私は直接指導して頂いた事はありませんが、母校への愛校心やハンドボール部にかける情熱にはいつも圧倒されています。額田さんとはハンドボール部以外でも同窓会の副会長として同窓会誌「群芳」の編集でご一緒させて頂きました。私のオフィスには額田さんのモチーフである「薔薇」の絵が掛かっています。何かで悩んでいる時、「しっかりせんかい」と叱咤激励の声が聞こえて来るようです。年を重ねてもハートにはいつも額田さんのように青年の気概を持ち続けていたいと思います。

私は大学 2 年生の春大きなケガをしました。当時学園紛争の嵐が日本中の大学で吹き荒れていたのですが、関学キャンパスでも状況は同じでした。心ない全共闘学生の投石が私の顔面に命中し負傷したのです。救急車で病院へ運ばれ手術を受けましたが残念ながら片方の視力を失い、以後ハンディを背負って生きて行く事になりました。ボール競技では殆んど選手生命が絶たれた事になります。医者からは健常な眼へのリスクもあり、遠近感の喪失を考えると競技を続ける事は難しいだろうと言われました。暗闇の生活がしばらく続き、考える事は悪い事ばかりでした。親には高校 1 年夏合宿、そしてこの時のケガと 2 度心配を掛けてしまいました。入院中は大学のチームメイトを始めたくさんの方が見舞いに来てくれました。一時は悲観的になりハンドボールを諦めかけていましたが、当時関学ハンドボール部の監督（渡辺一巳さん、豊中高～関学）から「たとえ片方の目が見えなくても人間には心眼というものがある、お前なら絶対できる、やってみろ」と励まされました。その言葉に私は心が震え、もう一度大好きなハンドボールをやってみようと決めたのです。渡辺さんは、榎本さん、津田さんの学年を始め関学を何度も学生

10/20 読売

# 片目の勝ち越しシュート

## みごと再起

### 関学紛争で重傷のハンドボール部員

十九日、大阪府立大学で行なわれた関西学生ハンドボール・リーグの関学―大経大戦に、学園紛争のさなか全共闘派学生の投石で左目に重傷を負った関学の川上貴司選手(二)(法学部三年)が復帰して元気なプレーをみせた。

川上選手はさる三月二十三日、関学での「全関学人総決起集会」でおこった全共闘派学生との衝突事件で、左目に重傷を負い、西宮市の吉本外科病院に収容、その後、高槻市の大阪医大病院に移り約二か月間療養。診断の結果、右目の視力は1・2と正常だが、左目は網膜裂傷、眼瞼裂傷、眼内出血でまったく見えず、来年二月に同病院で再手術するが、まだ失明のおそれもあるという。

療養中は渡辺監督や部員、家族に勇気づけられ、この"チーム・メート"に守られて五月に退院、母校のグラウンドに立った。そして「どうしてもハンドボールを捨てたくない」と"再起への練習"にはいった。片目では距離感がつかめないと心配されたが、ふしぎにそれはなく、パス、シュートの正確さをます猛練習をつづけた。

この日のポジションは右サイド。1―1の前半6分30秒、倒れこみながらゴール・キーパーの足もとを抜いて勝ち越しのシュートをきめた。負傷前はおもに左サイドでプレーしていたが、負傷後は右からもシュートできるようにと特別に練習、それがみごとに結実した。「いままでは強引なシュートが多かったが、かえってそれがなくなった」という。この日もポイント・ゲッターの細井選手とともに5得点をあげる活躍ぶり。

各地で激化する学園紛争について「最近の紛争は学園のワクを越えている。全共闘が暴力で大衆を服従させるというやり方には抵抗を感ずるし、ぼくらは力で仕返しすることはできない。そこにジレンマを感じます」といい「学園があってこそスポーツ・クラブも成り立つのですから」と"学園防衛"に熱い決意をみせた。

◇関西学生ハンドボール・リーグ第二日（19日・大府大）

関学 17（8―6 9―7）13 大経大

王座に導き、浅野さんが出場した第１回ユニバーシアード大会の監督、そして打倒大崎電機を旗印に木野実さん（立教～湧永）市原則之さん（湧永～ＪＯＣ専務理事）早川清孝さん（日体大～湧永、故人）など、当時日本を代表するトッププレーヤー達を集めて湧永製薬ハンドボール部創設に関わり初代監督を務められた伝説の方です。そんな関係もあって湧永創部当初は関学と本当によく練習をしました。当然の事として私達はみるみる実力がつき、2 年生の関西学生秋季リーグで同志社を抑え優勝する事が出来ました。今振り返ってみますと、高校・大学を通じ幸運にも素晴らしい方々とのご縁（出会い）に恵まれ、本当に充実した競技生活を送る事が出来たと感謝しています。

3 年生の春の再手術後、私は大学での練習以外多くの時間を自主練習に費やしました。感覚を取り戻すまでには、つらい事も

**全日本男子**
（オリンピック第２次候補選手）

監督　村田　弘
コーチ　竹野　奉昭

| | | | | cm |
|---|---|---|---|---|
| GK | 1 | 下里敏彦 | 大崎電気 | 184 |
| | 12 | 本田洋 | 大阪イーグルス | 178 |
| | 17 | 大村久 | 全日体大 | 178 |
| FP | 2 | 飯田誠行 | 大崎電気 | 188 |
| | 3 | 有永修二 | 東京海上 | 187 |
| | 4 | 平岡秀雄 | 東京教員 | 183 |
| | 5 | 斉藤光男 | 群馬教員 | 183 |
| | 6 | 木野実 | 湧永薬品 | 180 |
| | 7 | 早川清孝 | 湧永薬品 | 180 |
| | 8 | 中井武三 | 大同製鋼 | 180 |
| | 9 | 新実俊夫 | 芝浦工大 | 180 |
| | 10 | 氷海正行 | 日体大 | 180 |
| | 11 | 東一敏 | 大崎電気 | 179 |
| | 13 | 藤中憲二 | 大崎電気 | 179 |
| | 14 | 花輪博 | 中央大 | 177 |
| | ⑮ | 近藤信行 | 大崎電気 | 171 |
| | 16 | 野田清 | 大同製鋼 | 169 |

ユニホーム①赤②白

**全日本学生選抜**
（韓国遠征候補選手）

監督　中沢　重夫
マネジヤー　奥田　祥一

| | | | | cm |
|---|---|---|---|---|
| GK | 1 | 馬淵豊明 | 立教大 | 179 |
| | 12 | 森友通夫 | 大阪経大 | 181 |
| FP | 2 | 松原光三 | 日体大 | 180 |
| | ③ | 佐藤要二 | 中央大 | 176 |
| | 4 | 佐々木健一 | 中央大 | 176 |
| | 5 | 明石雄次 | 芝浦工大 | 178 |
| | 6 | 大江隆夫 | 芝浦工大 | 172 |
| | 7 | 荒井正人 | 法政大 | 177 |
| | 8 | 松喜美男 | 日大 | 176 |
| | 9 | 松井昭二 | 同志社大 | 174 |
| | 10 | 川上貴司 | 関学 | 167 |
| | 11 | 中村博之 | 大阪体大 | 178 |
| | 13 | 川口啓一 | 名城大 | 175 |
| | 14 | 夏目真治 | 中京大 | 180 |
| | 15 | 宮松久夫 | 関西大 | 174 |
| | 16 | 小原由幸 | 金沢大 | 176 |
| | 17 | 山本信一 | 仙台大 | 175 |
| | 18 | 木原秀樹 | 松山商大 | 174 |
| | 19 | 飼沼敏雄 | 名城大 | 173 |

ユニホーム①紺②

写真左から
※オリンピック代表選手
1. 松原光三※
（日体大～大同製鋼）
3. 川上貴司　（関学）
4. 佐藤要二※
（中央大～本田技研）
5. 大江隆雄※
（芝浦工大～三菱レイヨン）
6. 佐々木健一※
（中央大～三景）
7. 馬渕豊明　（立教大）
8. 明石雄次　（芝浦工大）
9. 中村　博　（大体大）

全日本学生選抜チーム（胸に日の丸をつけて）
1971.7　海外遠征（韓国）時

ありましたが努力は嘘をつかないものです、3年生の秋で関西学生選抜選手に、4年生ではミュンヘンオリンピックに向けて8年振りに編成された全日本学生選抜軍の一員として海外遠征も経験させて頂きました。両親や医者から反対された復帰への挑戦でしたが、高津ハンドボール部で培われた精神力や、その他多くの方々から頂いた温かい励ましが心の支えとなり、夢の実現に向かって頑張る事が出来ました。あの時、渡辺さんにかけて頂いた言葉は本当に現実のものとなりました。心に響く言葉は人生を変え、その人の未知の力を引出してくれます。残念ながら現役時代にミュンヘンには行けませんでしたが、浅野さんと同じステージに立て、何とか所期の目標（高校時代の夢）に近づけたのではないかと自負しています。

私は卒業後大阪を離れ5年程のサラリーマン生活を経て家業に戻りましたが、関学ハンドボール部ＯＢ会からの要請で家業の

入替戦 於大体大 10-16 関大

# よみがえった関学ハンドボール

ファイル'80

関学のハンドボール部が、関西学生秋季リーグから1部に復帰して話題を呼んでいる。リーグ最高の25回優勝、全日本学生の王座に6年連続ついた実績をもつ同部。ところが、47年秋に2部転落以来、不振を続けた。今回の復帰は実に8年ぶり。その裏には男のドラマがあった。

監督の川上貴司さん(三三)である。

学園紛争のあらしが吹き荒れた44年春、当時三年生だった川上さんは、全共闘派学生の投石で左目に重傷を負った。それでも、川上さんは、家族やOBを含めた部員の励ましに守られて再起、その秋のリーグから出場した。

目のハンデを感じさせない川上さんはポイントゲッターとして活躍。チームを常にAクラスに置く原動力となったが、卒業後は燃え尽きたようにハンドボールと完全に縁を切った。カネボウに入社。仕事は労務関係で、ほとんどが地方勤務。その間、関学は学園紛争のあおりで44年の入部者ゼロがたたり、47年秋2部転落、翌年には3部、52年秋ようやく2部に戻ったものの、低迷を続けていた。

## 先輩監督の努力実る

「母校がどんな状態か知らなかった」川上さんに、思いもかけずコーチの話が持ち上がったのは52年8月。父、孟男（たけお）さんの病気で、家業を継ぐため大阪へ戻った川上さんに、当時の監督、日向安さんから「技術を教えてやって」と要請されたのがきっかけ。

川上貴司監督

久しぶりに部を見た川上さんは「これはひどい」とびっくりした。女の子を助手席に、車で乗りつける選手。部室でたばこを平気で吸う。無断で練習を休む。統制がとれ、マナーにやかましかった現役時代では考えられない乱れよう。川上さんは技術以前の問題から直していった。まず車での通学をやめさせ、部室での喫煙も厳禁。もちろん川上さんも日に30本吸っていたたばこをやめた。

日常生活の乱れを正した部は徐々に力をつけていった。監督となって2年目、悲願の1部復帰。「生まれて初めての胴上げはうれしかった。何かいいたかったが言葉にならない。涙をこぼすまいと精一杯でした」感激のさめやらない川上さん。「今度は1部優勝を」と、夢をふくらませる。

（足立）

傍ら監督を（1980 年～1992 年）務めました。大阪を離れている間、学園紛争のダメージが響き一気に 3 部リーグまで転落、一時は廃部の危機も経験しましたが、榎本さん、津田さん、服部さん（10 期、元関学ハンドボール部ＯＢ会会長、故人）、土田さん（13 期）他、多くの先輩方の物心に亘るサポートで 1 部復帰を果たし、近藤信一郎さん（中 21 期、元安田火災常務、関学初代キャプテン）が中心となり 1946 年に創部された関学ハンドボール部の伝統を繋いでいます。又、監督経験を通じ、来年 70 回を迎えるハンドボール界で最も古い定期戦（早稲田・関学ハンドボール定期戦）や、関学に対して寄せられる各方面からの話に触れるにつけ、現役時代には分からなかった伝統の重みを実感すると共に、伝統を繋ぐ地道な努力の大切さや社会人として必要な多くの事を学びました。

高津高校においては、太田寛人君（30 期）がハンドボール部顧問として母校に赴任後熱心に現役を指導してくれていましたので、額田さんを始め多くの先輩から「彼を応援しようではないか」という機運が高まり、2004 年 5 月、「ＯＢ・ＯＧ会」が結成され、以後物心両面で現役支援活動を続けています。今年「ＯＢ・ＯＧ会」発足 10 周年を迎え、この度「新部誌」を発行する運びになりましたが、これを機に「ＯＢ・ＯＧ会」の皆さんには 3 世代 70 年続くこの伝統あるクラブを次の世代に繋いで頂き、現役諸君には文武両道の精神を忘れず、部顧問の指導の下高い目標（夢）に向かって日々努力し、高津ハンドボール部黄金時代の復活を是非実現してもらいたいと心から願っています。

最後に、私の入院中遠方まで見舞いに来てくれた佐藤（稔）、塩谷（旧姓 定）23 期、男女両キャプテンを始め、今まで心配を頂きながらご無礼していたコーチ時代の部員の皆さんに、この紙面をお借りして改めてお礼を申し上げると共に、多くの高津の卒業生が大学リーグ戦で活躍する姿や、いつの日か母校からオリンピック選手が出る事を夢見て皆さんへのメッセージにさせて頂きます。

私の原点「高津高校ハンドボール部」に栄光あれ！